

このように、この小さい者たちの一人が減じることは、天におられるあなたがたの父のみこころではありません。

### マタイの福音書 18 章 14 節

マタイ 18 章は、マタイの福音書の 5 大説教の 4 番目が記されています。内容は「神の国の共同体」についてで、その示すところは「教会の人間関係」と言えます。

イエス様はまず、救われて神の民に加えられた人はどのような心構えが必要かを説きます。それは「向きを変える」(3)ことです。罪を悔い改めて神に立ち返って救われた人はまさに「向きを変えた」のです。救われた人は「向きを変えた」生き方を続けることが必要です。それは生き方の価値観を変えることです。考え方の基準を変えらることも言えます。この世の価値観を離れなければなりません。また、ヒューマニズムでもあ

りません。神の栄光を現わすことがキリスト者の生き方です。

弟子たちは「だれが一番偉いのか?」と問いました。これは世的な考え方です。救われても世に生きる私たちは世の考え方に囚われています。この考え方を変えていかなければ霊的な成長は望めません。世的な考え方は人を傷つけ教会を破壊します。「誰が一番偉いのか?」という問いは、人の間に優劣をつけます。それは人を排除する理論につながります。

イエス様は 5 節以降で「受け入れる」「つまずく」を対比して語ります。教会は主が愛されたお互いを主にあつて受け入れる

ことが望まれます。世的な基準で優劣をつけて誰かを排除しようとしていないかと問われます。それは主が悲しまれるであることを肝に銘じなければなりません。

一方で 15 節以降では、罪についてはきちんと対処するようにとイエス様は述べておられます。愛の名のもとに罪がうやむやにされることはヒューマニズムであつて神の栄光を損ないます。なぜなら神は罪のない聖なる御方であり、罪の解決のためにイエス様は十字架に架かられたからです。罪から離れることが、人を本当の意味で自立させるのです。

これらのことを貫くのは、神の御心は人を罪の滅びから救い神の前に生かすということです(14)。迎えたこの年、これらのことをお互いに心に留めながら、教会が教会であるために取り組みましょう。(泰)

## 【報告 消息】

・年末感謝会 2年ぶりとなる証し会。  
年末感謝会というだけでなく、お互いの証しを聞く場を持てたことが久しぶりのことでした。限られた時間でしなが14名が証しに立ち主の恵みを分かち合いました。感謝です。

もつともつとお互いの顔を見ながら証しを聞きたいと願います。コロナの状況が落ち着いたらそのような機会を設けたいと考えています。

出席者 25名

・クリスマス飾り片付け 年末感謝会後に兄妹の協力を得て片付けをしました。お手伝いくださった方々に感謝します。

12月を振り返ると、クリスマス、年末ということ、久しぶりに顔を見せてくださったたり、連絡をくださった兄弟姉妹や関わる方々が多くありました。コロナ禍で活動に制限はありますが、主が恵みを備えてくださったことを覚えて感謝します。迎えた新しい年も、主の恵みを数えながら進んで行きましょう。

## ■有志ボランティアによる

### 無料食品配布の第2回目実施について

昨年12月に教会員有志による「ボランティアグループしおん」は、支援を必要としている方々に食品の無料配布ボランティアを実施し48名に食品を渡すことができました。これを受けて第2回目のボランティアを行うこととし、教会は今回もシオン館を会場として提供します。ボランティアチームでは、次週9日より食料品の提供を募集します。賛同くださる方には協力をお願い致します。

賞味期限や募集内容などご質問は担当者までお問合せください。

### \*食品提供について

・募集開始 1月9日

・提供方法

日曜日に教会正面階段下に「収集箱」を設置します。そちらに収めてください。現場担当は山口光兄と菊地姉です。

・食料品配布日 2月5日(土)

会場 シオン館